

北海道 公衆衛生学雑誌

ISSN 0914-2630 CODEN HKEZEA

Vol 17 No1 2003

Hokkaido Journal of Public Health

Contents

第55回北海道公衆衛生学会プログラム

学会長 小樽市保健所長 外岡立人
会期 平成15年10月9日・10日
会場 小樽市民会館（小樽市花園5丁目3番1号）

■特別講演

「これからの高齢者運動プログラムの方向性」
—行政における指針—
北海道大学体育指導センター助教授

川初清典

■教育講演

- 1 「新興・再興感染症の話題」
札幌市衛生研究所長
- 2 「水産加工副産物を活用した高品質魚醤油の開発」
—食品加工研から発信する次世代水産加工技術—
北海道立食品加工研究センター

藤田晃三

吉川修司

■シンポジウム

「S R S V感染症の問題点」
座長 小樽市保健所主幹

江原朗

■トピックス

座長 北海道岩内保健所長
札幌医科大学医学部助教授
小樽市保健所医師

福島亨
岡野五郎
江原亮子

<健康へ/2003小樽市民フォーラム>

■基調講演

- 1 「仲間と歩んだ食生活改善30年」
小樽食生活改善協議会会長
- 2 「自分が主役の健康づくり まちづくり」
—行政と住民のパートナーシップ—
愛媛大学医学部附属病院
医療福祉支援センター副センター長

島野千恵子

榎本真幸

■口演 テーマ「住民参加と保健活動」

■円卓会議

座長 小樽市保健所主幹

藤井千恵子

第55回 北海道公衆衛生学会

学 会 長 外 岡 立 人 小樽市保健所長

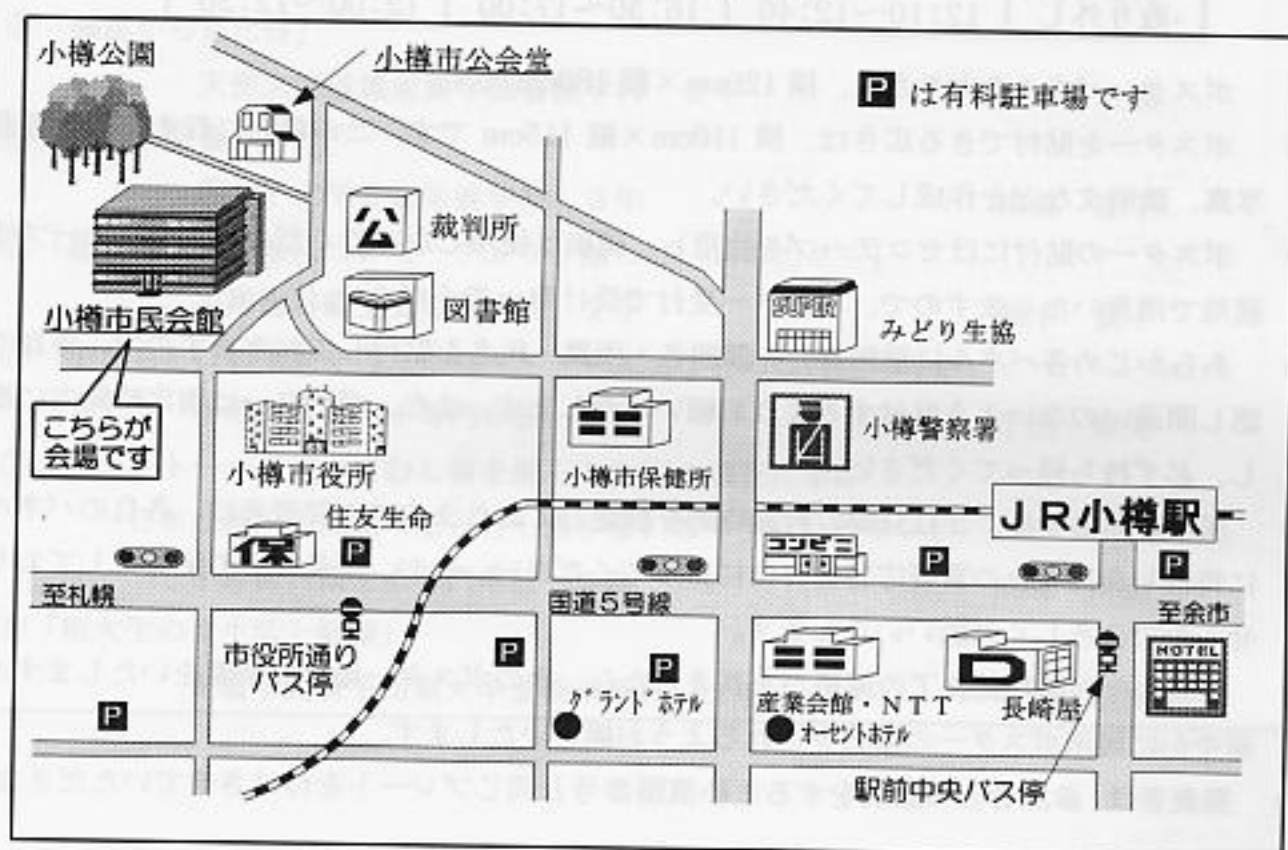
期 間 平成15年10月9日(木)・10日(金)

会 場 小樽市民会館
〒047-0024 小樽市花園5丁目3番1号

第1会場 大ホール(1階)

第2会場 1号集会室(地下1階)

会 場 案 内 図



- ・会場はJR北海道小樽駅から徒歩15分、タクシーで約5分です。また、小樽駅前中央バス停(パーラー太陽前)から②③桜町、新光町2丁目行き乗車、市役所通りにて下車徒歩5分です。
- ・駐車場は小樽市民会館(約20台)と小樽市役所(約50台)にありますが、他の利用者もありますので、なるべく公共交通機関のご利用をお勧めいたします。

学会運営についてのお知らせ

1. 学会参加者の皆様へ

- (1) 会場受付で、抄録集代 (1,500 円)、参加費 (学会員は 1,000 円、非学会員は 2,000 円) を納めてください。
なお、一般演題の発表者には、あらかじめ抄録集をさしあげていますので、参加費 (1,000 円) を納めてください。
引き換えにネームプレートをお渡ししますので、氏名・所属を記入の上、着用してください。ネームプレートの無い方の入場はお断りいたします。
- (2) 喫煙及び飲食は必ず所定の場所をお願いいたします。
- (3) 会場内での呼び出しは行いません。

2. 一般演題 (ポスターセッション) の発表者へ

- (1) ポスターの発表時間割は以下の通りです。

	10月9日(午前)	10月9日(午後)	10月10日(午前)
貼付	9:00～9:30	13:30～14:00	9:00～9:30
展示	9:40～11:40	14:00～16:00	9:30～11:30
討論	11:40～12:10	16:00～16:30	11:30～12:00
取り外し	12:10～12:40	16:30～17:00	12:00～12:30

- (2) ポスターパネルの大きさは、横 120cm×縦 180cm です。
- (3) ポスターを貼付できる広さは、横 110cm×縦 115cm です。この範囲に収まるよう図表、写真、説明文などを作成してください。
- (4) ポスターの貼付にはセロテープを使用し、画紙は使用しないでください。セロテープは事務局で用意いたしますので、ポスター受付で受け取ってください。
- (5) あらかじめ各パネルに演題番号・演題名・所属・氏名を貼付しておきますので、各自で確認し間違いのないよう貼付するようお願いいたします。また、ポスターは指定時間内に撤去し、必ず持ち帰ってください。
- (6) 展示時間終了後、30分間の討論時間を設定しておりますので発表者は、各自のパネル前に待機し参加者との質疑応答を自由に行ってください。なお、座長などの配置はしていませんのでよろしくお願いいたします。
- (7) 係員より討論時間終了の連絡がありましたら、次のポスター掲示の準備をいたしますので速やかに展示ポスターの撤去をされるようお願いいたします。
- (8) 発表者は、参加者との識別をするため演題番号と同じプレートを付けさせていただきます。

※ ポスター作成と発表についての注意点

- (1) 研究の目的を 2～3 項目で最初に表示し、短い要約を付けてください。
- (2) 目的の次に結論を 2～4 項目程度でまとめて表示してください。
- (3) 特定の会員と長時間議論せず、なるべく多くの会員と議論するよう心がけてください。

【 関連行事 】

※北海道公衆衛生協会

平成15年度研究集会 テーマ「感染症危機管理（SARS対策を中心に）」

10月8日（水）13：30～17：00

小樽市民会館 地下1階：1号集会室

※北海道衛生公衆衛生セミナー

テーマ「青年期ひきこもりケースの理解と援助」

山梨県立精神保健福祉センター センター長 近藤 直司 先生

10月9日（木）17：30～（一般演題終了後）

小樽市民会館 1階：2号集会室

【 学生によるポスター展示 】

10月9日（木）12：10～13：30 小樽市民会館 地下1階：1号集会室

①「生きていても培養不能状態（VBNC）の

リステリア・モノサイトゲネスの作出とその培養能力再獲得の試み」

酪農学園大学 6年

加藤 幸子

②「緑黄色野菜のおいしい食べ方」

天使大学看護栄養学部栄養学科 4年

岡元 志保

③「雑誌から見た性」

天使大学看護栄養学部看護学科 2年

武市 潤

④「運動と栄養」

藤女子大学食物栄養学科 3年

南部 朋子

⑤「超酸性水の効果について—チョウ！酸っぱい水の力？—」

小樽歯科衛生士専門学校 2年

鈴木 寛子

⑥「子どもと口の未来を考えたら・・・—大切なものは何だろう—」

小樽歯科衛生士専門学校 2年

下出 麻美

⑦「キシリトールを使ってむし歯を減らした国の調査に学ぶ

—日本は他の国に比べるとむし歯が多いの？少ないの？—

小樽歯科衛生士専門学校 2年

山崎 由紀

⑧「短大生の食生活と健康」

光塩学園女子短期大学食物栄養科 2年

中井 琴美

第55回 北海道公衆衛生学会 日程

		第1会場 (1階:大ホール)	第2会場<ポスターセッション> (地下1階:1号集会室)
10月9日(木)	午前	挨拶 (9:30~9:40) 学会長 小樽市保健所長 外岡 立人 小樽市長 山田 勝麿	一般演題 ポスター展示 (9:40~11:40) 地域保健・医療・福祉 (10題) 成人保健 (3題) 老人保健・福祉・介護 (7題) ポスター討論 (11:40~12:10)
		教育講演1 (9:45~10:30) 「新興・再興感染症の話題」 札幌市衛生研究所長 藤田 晃三	
		教育講演2 (10:40~11:25) 「水産加工副産物を活用した高品質魚醤油の開発」 —食品加工研から発信する次世代水産加工技術— 北海道立食品加工研究センター 吉川 修司	
	昼	北海道公衆衛生学会評議員会 (2階:8号集会室) (12:10~13:00)	
	午後	総会 (13:05~13:35) 特別講演 (13:45~14:45) 「これからの高齢者運動プログラムの方向性」 —行政における指針— 北海道大学体育指導センター助教授 川初 清典	
午後	ミニシンポジウム (14:55~15:55) 「SRSV感染症の問題点」 「小型球形ウイルス (SRSV) 食中毒と二次感染の予防」 北海道釧路保健所長 荒田 吉彦 「SRSV患者集団発生での対応について」 北海道名寄保健所長 高坂 正計 「食中毒として対応した静内保健所 におけるSRSV感染症の事例」 北海道静内保健所長 廣島 孝	一般演題 ポスター展示 (14:00~16:00) 歯科保健 (8題) 思春期保健 (5題) 感染症 (11題) ポスター討論 (16:00~16:30)	
	トピックス (9:00~11:15) 1 児童虐待の予防と早期発見の体制整備について —虐待リスクアセスメント指標の実践的検討— 植村 かよ子 2 大学・専門学校生の精神的健康度と生活習慣の 関連—予備調査の成績から— 佐藤 香苗 3 児童と保護者が一緒に参加した思春期教室の 取り組みについて 松浦 友香 4 介護予防における筋力トレーニング事業の効果について (第2報) —虚弱高齢者の事例を通して— 狩野 麻依子 5 総合的中老年者健康増進プログラムへの取り組み 橋本 真紀子 6 「健康づくり運動教室」の運動習慣形成に対する 効果—効果の程度とそれを左右する要因— 岡野 五郎 7 ネパールでの公衆栄養活動を体験して 藤田 智子 8 新築住宅における化学物質濃度・湿度環境と シックハウス症状の関連 西條 泰明 9 SARS対策における保健所保健師の関わり 増川 奈央	一般演題 ポスター展示 (9:30~11:30) 試験検査・環境・食品衛生 (9題) 母子・学校保健 (5題) 疫学・統計 (6題) 保健所・衛生行政 (8題) ポスター討論 (11:30~12:00)	
昼	北海道公衆衛生学雑誌編集委員会 (2階:11号集会室) (12:10~13:00)		
10月10日(金)	午前	健康へ! 2003小樽市民フォーラム (13:10~15:50) 基調講演1 (13:10~13:40) 「仲間と歩んだ食生活改善30年」 小樽食生活改善協議会 会長 島野 千恵子	
		基調講演2 (13:45~14:25) 「住民が主役の健康づくり まちづくり」 —行政と住民のパートナーシップ— 愛媛大学医学部附属病院医療福祉支援センター 副センター長 櫃本 真幸 テーマ「住民参加と保健活動」	
午後	口演 (14:30~15:10) 仲間の力が私の健康 横田 幸雄 住民パワーが継続につながった 須摩 敦子 みんなで学んで、まず一歩 前田 冷子 「障がい児・者」が地域の中でいきいきと暮らす街 川口 滋子 円卓会議 (15:20~15:50) アドバイザー 櫃本 真幸		

特別講演

特別講演

第1日 10月9日(木) 13:45~14:45 第1会場(大ホール)

「これからの高齢者運動プログラムの方向性」

—行政における指針—

演者 川初 清典 北海道大学体育指導センター助教授

座長 外岡 立人 小樽市保健所長

教育講演

教育講演1

第1日 10月9日(木) 9:45~10:30 第1会場(大ホール)

「新興・再興感染症の話題」

演者 藤田 晃三 札幌市衛生研究所長

座長 竹内 徳男 北海道俱知安保健所長

教育講演2

第1日 10月9日(木) 10:40~11:25 第1会場(大ホール)

「水産加工副産物を活用した高品質魚醤油の開発」

—食品加工研から発信する次世代水産加工技術—

演者 吉川 修司 北海道立食品加工研究センター

座長 大倉 茂 小樽市保健所生活衛生課食品衛生係長

ミニシンポジウム

第1日 10月9日(木) 14:55~15:55 第1会場(大ホール)

「SRSV感染症の問題点」

「小型球形ウイルス(SRSV)食中毒と二次感染の予防」

演者 荒田 吉彦 北海道釧路保健所長

「SRSV患者集団発生での対応について」

演者 高垣 正計 北海道名寄保健所長

「食中毒として対応した静内保健所におけるSRSV感染症の事例」

演者 廣島 孝 北海道静内保健所長

座長 江原 朗 小樽市保健所主幹

トピックス

第2日 10月10日(木) 9:00~11:15 第1会場(大ホール)

1. 児童虐待の予防と早期発見の体制整備について

—虐待リスクアセスメント指標の実践的検討—

演者 植村 かよ子 北海道滝川保健所

2. 大学・専門学校生の精神的健康度と生活習慣の関連

—予備調査の成績から—

演者 佐藤 香苗 北海道大学大学院医学研究科

3. 児童と保護者が一緒に参加した思春期教室の取り組みについて

演者 松浦 友香 旭川市保健所

座長 福島 亨 北海道岩内保健所長

4. 介護予防における筋力トレーニング事業の効果について(第2報)

—虚弱高齢者の事例を通して—

演者 狩野 麻依子 奈井江町役場

5. 総合的中老年者健康増進プログラムへの取り組み

演者 橋本 真紀子 小樽市保健所

6. 「健康づくり運動教室」の運動習慣形成に対する効果

—効果の程度とそれを左右する要因—

演者 岡野 五郎 札幌医科大学医学部運動科学教室

座長 岡野 五郎 札幌医科大学医学部助教授

7. ネパールでの公衆栄養活動を体験して

演者 藤田 智子 なの花薬局・真栄店

8. 新築住宅における化学物質濃度・湿度環境と

シックハウス症状の関連

演者 西條 泰明 北海道大学大学院医学研究科
予防医学講座公衆衛生学分野

9. SARS対策における保健所保健師の関わり

演者 増川 奈央 小樽市保健所

座長 江原 亮子 小樽市保健所医師

<健康へ！2003小樽市民フォーラム>

第2日 10月10日(金) 13:10~15:50 第1会場(大ホール)

基調講演1

第2日 10月10日(金) 13:10~13:40 第1会場(大ホール)

「仲間と歩んだ食生活改善30年」

演者 島野千恵子 小樽食生活改善協議会会長

座長 小軽米正子 小樽市保健所主任栄養士

基調講演2

第2日 10月10日(金) 13:45~14:25 第1会場(大ホール)

「自分が主役の健康づくり まちづくり」

—行政と住民のパートナーシップ—

演者 櫃本真串 愛媛大学医学部附属病院

医療福祉支援センター副センター長

座長 八代紀子 北海道倶知安保健所地域保健推進課長

口 演

第2日 10月10日(金) 14:30~15:10 第1会場(大ホール)

テーマ「住民参加と保健活動」

「仲間の力が私の健康」

演者 横田幸雄 健康づくりグループ「さわやかOB会」会長

「住民パワーが継続につながった」

—健康づくり教室OB会の活動を通して—

演者 須摩敦子 小樽市保健所保健師

「みんなで学んで、まず一歩」

中頓別町における「健康なかとんべつ21」のとりくみ

演者 前田冷子 中頓別町住民課保健福祉室保健予防係長

「障がい児・者が地域の中でいきいきと暮らす街

—ニセコ町健康プランづくりに参加して—

演者 川口滋子 NPO法人「ニセコ生活の家」理事長

座長 藤井千恵子 小樽市保健所主幹

円卓会議

第2日 10月10日(金) 15:20~15:50 第1会場(大ホール)

アドバイザー 櫃本真串

一 般 演 題 (ポスターセッション)

第1演者のみを掲載しています。

10月9日(木) 午前 第2会場(地下1階:1号集会室)

ポスター展示(9:40~11:40)・ポスター討論(11:40~12:10)

地域保健・医療・福祉

- 1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の在宅における
QOL向上に向けて関係者ネットワークが果たした役割
本瀬めぐみ (北海道倶知安保健所)
- 2 南富良野町生活習慣実態調査のまとめ、平成14年
森 美也子 (南富良野町保健福祉課保健指導係)
- 3 美唄市高齢者保健福祉計画 介護保険事業計画 策定における職員の学び
赤沼 智美 (美唄市高齢者介護福祉課)
- 4 神経難病患者・家族と仲間「いちいの会」における自主グループ活動の展開
斉藤由美子 (北海道稚内保健所)
- 5 地域のたばこ対策と保健所の役割
廣田 洋子 (北海道千歳保健所)
- 6 「天塩町健康づくり計画」策定の取り組み(第1報)
～住民主体の健康づくり計画を目指して～
宇野 淑恵 (天塩町役場)
- 7 西胆振地域健康づくり行動指針実態調査から(第1報)
—喫煙状況と生活習慣—
山下真智子 (北海道室蘭保健所)
- 8 西胆振地域健康づくり行動指針実態調査から(第2報)
—BMIと生活習慣—
佐々木秀子 (北海道室蘭保健所)
- 9 精神障害者ホームヘルプ事業におけるホームヘルパーと保健師の協働
—ホームヘルパーへのアンケート調査を通して—
杉山さちよ (旭川医科大学医学部看護学科)
- 10 精神科遠隔医療モデル事業について(第二報)
—離島住民を対象としたテレビ電話による精神科遠隔診療の可能性—
坂田 洋一 (北海道稚内保健所)

成人保健

- 11 住民自らが健康づくりを考えたワークショップの取り組み
～糖尿病予防を考える会の準備から発展過程までの保健師の働きかけ～
常本 裕子 (上砂川町役場福祉保健課保健予防係)
- 12 江別保健所管内における炎症性腸疾患患者の生活実態
上出 渚 (北海道千歳保健所)
- 13 地域・職域健康管理の連携のための健康診査データベースの構築
大柳 俊夫 (札幌医科大学保健医療学部)

老人保健・福祉・介護

- 14 閉じこもり高齢者の背景と要因から支援のあり方を考える
廣田 龍子 (妹背牛町役場)
- 15 高齢者実態調査6年間のまとめ～Jランクの追跡調査の結果から～
沖 真理子 (南富良野町在宅介護支援センター)
- 16 地域で生活する障害者と周囲の関係
山居 優子 (北海道網走保健所)
- 17 気道感染予防対策の取り組み(第一報)～在宅要介護高齢者の訪問実態調査から～
松野由紀子 (北海道上川保健所)
- 18 痴呆性高齢者への支援の実態と地域の課題
大友由紀子 (北海道紋別保健所)
- 19 特別養護老人ホームにおける口腔ケアの取り組み経過について(第1報)
佐藤 美雪 (特別養護老人ホーム赤平市愛真ホーム)
- 20 特別養護老人ホームにおける口腔ケアの取り組み経過について(第2報)
—保健所として主体的な取り組みを支えた経過—
加藤 淳子 (北海道滝川保健所)

歯科保健

- 21 10か月児健康診査における歯科保健指導の効果について
日田 昇一 (函館市衛生試験所)
- 22 障害を持つ高齢者の口腔ケアの取り組み
—赤井川村におけるディサービス利用者の障害者口腔指導事業から—
角井 静子 (赤井川村健康支援センター)
- 23 旭川市民の歯の健康意識について(第2報)
～「健康日本21旭川計画」アンケート調査の結果から～
上林 宏次 (旭川市保健所)
- 24 気道感染予防対策の取り組み(第二報)
～健康な高齢者への口腔内健診と口腔ケア指導の介入による行動変容調査から～
沼田 栄子 (北海道上川保健所)
- 25 幼児保護者のむし歯に関する保健行動自己評価の変化について
木村美紀子 (門別町役場)
- 26 小樽市の保育施設児の保護者にむけたフッ化物応用に関する意識調査の結果
—子どもの歯と健康づくりについての調査報告抜粋—
藤川 泰恵 (小樽市保健所)
- 27 口腔保健行動とライフスタイルの関連について
—南富良野町における生活実態調査から—
大久保留加 (北海道大学歯学部附属病院咬合系歯科)
- 28 小学6年生の一人平均う歯数について
中山 司 (北海道室蘭保健所)

思春期保健

- 29 高校生の性教育に関する一考察—コンドーム使用徹底を図るために—
伊東 則彦 (北海道帯広保健所)
- 30 高校生の性行動・性意識調査—釧路市、平成12年—14年度—
ランベッリ律恵 (北海道大学医学部研究科老年保健分野)
- 31 釧路市における高校生の性行動の最近の特徴—平成14年度の分析—
久保 清香 (釧路市役所)
- 32 思春期の“生きる力”を高めるピアカウンセリング技法の実践
菊地みさき (北海道浦河保健所企画総務課)
- 33 中標津町における学童期の喫煙の実態について
中村 秀恒 (北海道網走保健所)

感染症

- 34 RFLPによる結核菌の型別分類
河合 常明 (札幌市衛生研究所)
- 35 感染症流行の周期特性および影響を及ぼす環境要因について
—全国感染症発生動向調査、1981—2002年—
長谷川伸作 (北海道立衛生研究所)
- 36 保健師による結核患者管理の問題点
宇田川ゆかり (小樽市保健所)
- 37 小樽市保健所におけるSARS対策のとらえ方～保健所保健師の立場から～
加納 梨絵 (小樽市保健所)
- 38 北海道におけるライム病の疫学と診断法の導入に関する調査研究
—病原体診断と血清学的診断の検討—
若森 吉広 (北海道立衛生研究所微生物部)
- 39 高齢者施設におけるA群ロタウイルス感染症の集団発生
三好 正浩 (北海道立衛生研究所微生物部)
- 40 室温に放置したエキノコックス(多包条虫)虫卵の感染性
八木 欣平 (北海道立衛生研究所生物科学部)
- 41 北海道で集団発生したクリプトスポリジウム症の遺伝子型
八木 欣平 (北海道立衛生研究所生物科学部)
- 42 パンを原因とした小型球形ウイルス食中毒事件
紀伊 勤 (北海道釧路保健所)
- 43 2002年度の北海道におけるインフルエンザウイルスの疫学調査
伊木 繁雄 (北海道立衛生研究所微生物部)
- 44 北海道感染症情報センターのWEB発信について
中野 道晴 (北海道立衛生研究所企画総務部)

ポスター展示(9:30~11:30)・ポスター討論(11:30~12:00)

試験検査・環境・食品衛生

- 45 農産物への残留農薬迅速分析法の適用性について(第12報)
—ピレスロイド系農薬及びN-メチルカーバメイト系農薬—
菅原 尚子 (北海道稚内保健所)
- 46 2003年の道内5都市における花粉飛散状況調査
武内 伸治 (北海道立衛生研究所健康科学部)
- 47 農産物への残留農薬迅速分析法の適用性について(第10報) —含窒素系農薬—
新山 和人 (北海道立衛生研究所食品薬品部)
- 48 農産物への残留農薬迅速分析法の適用性について(第11報) —有機リン系農薬—
青柳 光敏 (北海道立衛生研究所食品薬品部)
- 49 海洋性鳥類と魚類のPCB異性体組成の相関
平間 祐志 (北海道立衛生研究所食品薬品部)
- 50 PCBの単回投与実験によるマウス肝臓中での代謝
平間 祐志 (北海道立衛生研究所食品薬品部)
- 51 札幌市における湿性沈着量の動向
恵花 孝昭 (札幌市衛生研究所)
- 52 北海道産魚介類中の有機スズ化合物濃度
橋本 諭 (北海道立衛生研究所食品薬品部)
- 53 レジオネラ症防止対策におけるバイオフィルム対策の重要性
森本 洋 (北海道立衛生研究所微生物部)

母子・学校保健

- 54 3歳児におけるう蝕と生活習慣との関連について
—釧路保健所管内におけるアンケート調査から—
伊谷 公男 (北海道釧路保健所)
- 55 学校歯科保健との連携を目指して～女満別町児童クラブへの取組みから～
中山 佳美 (北海道岩見沢保健所)
- 56 千歳市学童食生活実態調査～朝食の摂取状況について～
青山 美和 (千歳市保健福祉部健康増進課健康指導係)
- 57 子どもと両親の食環境調査
小軽米正子 (小樽市保健所)
- 58 乳幼児を持つ母親の子育てに関する一考察
～乳幼児健康診査アンケート調査の分析から～
渋谷 朋子 (小樽市保健所)

疫学・統計

- 59 北海道アトピー性皮膚炎等実態調査—1. 症状と関連する要因について—
大見 広規 (北海道上川保健所)
- 60 北海道アトピー性皮膚炎等実態調査—2. 治療状況、行政等への要望について—
栗原南海子 (北海道保健福祉部子ども未来づくり推進室)
- 61 2×2表を用いた計算についての学習のための試み
望月 吉勝 (旭川医科大学看護学科)
- 62 年齢調整死亡率についての学習のための試み
望月 吉勝 (旭川医科大学看護学科)
- 63 検診受診者の受診動機の分析～センター受診者アンケート調査から～
宮古 嘉子 (北海道対がん協会釧路がん検診センター)
- 64 近年における保健・医療系論文に用いられる統計解析手法の推移
村松 宰 (北海道大学医学部保健学科)

保健所・衛生行政

- 65 北海道における看護職の生涯の継続意思に関連する要因
照井 レナ (北海道医療大学大学院看護福祉学研究科看護学専攻)
- 66 新任保健師の自己効力感を高めるためのサポートについて
館巖 晶子 (北海道倶知安保健所余市支所)
- 67 北海道の医療機関におけるホームページ公開の現状
三瀬 敬治 (札幌医科大学医学部衛生学講座)
- 68 介護保険を活用している神経難病患者のケアマネジメントと保健所保健師の役割
高橋 令子 (北海道釧路保健所)
- 69 最近の道路交通法改正の交通事故に及ぼす影響について—北海道を例として—
新井明日奈 (北海道大学大学院医学研究科老年保健医学分野)
- 70 道立保健所保健師のインターネット利用状況に関する調査 (平成15年)
鈴木 智恵 (北海道大学大学院社会医学専攻予防医学講座)
- 71 地域の看護機能強化を目指した保健所の研修企画
～施設間交流研修の研修効果からの一考察～
川本 京子 (北海道浦河保健所企画総務課)
- 72 母子保健計画見直しのプロセスにおける保健師の意識の変化に関する報告
近藤 明代 (日本赤十字北海道看護大学)

第55回北海道公衆衛生学会運営役員

学 会 長 小 樽 市 保 健 所 所 長 外 岡 立 人

幹 事	北 海 道 俱 知 安 保 健 所	所 長	竹 内 德 男
幹 事	北 海 道 岩 内 保 健 所	所 長	福 島 亨 亨
幹 事	北 海 道 俱 知 安 保 健 所 地 域 保 健 推 進 課	課 長	八 代 紀 子
幹 事	北 海 道 岩 内 保 健 所 企 画 総 務 課	課 長	柳 澤 豪 彦
幹 事	小 樽 市 保 健 所	次 長	須 貝 則 彦
幹 事	小 樽 市 保 健 所	主 幹	秋 野 恵 美 子
幹 事	小 樽 市 保 健 所	主 幹	中 村 悦 子
幹 事	小 樽 市 保 健 所	主 幹	江 原 朗 子
幹 事	小 樽 市 保 健 所	医 師	江 原 亮 子

事務局

事務局代表	小 樽 市 保 健 所	所 長	外 岡 立 人
事務局長	小 樽 市 保 健 所	次 長	須 貝 則 彦
副事務局長	小 樽 市 保 健 所 総 務 課	課 長	中 村 浩 子
事務局員	小 樽 市 保 健 所	主 幹	中 村 悦 子
事務局員	小 樽 市 保 健 所	主 幹	江 原 朗 子
事務局員	小 樽 市 保 健 所	主 幹	藤 井 千 恵 子
事務局員	小 樽 市 保 健 所	主 幹	若 山 隆 郎
事務局員	小 樽 市 保 健 所 生 活 衛 生 課	課 長	赤 川 晃 一
事務局員	小 樽 市 保 健 所 試 験 検 査 課	課 長	原 田 稔
事務局員	小 樽 市 保 健 所 総 務 課 庶 務 係	係 長	山 口 孝 志
事務局員	小 樽 市 保 健 所 生 活 衛 生 課 食 品 衛 生 係	係 長	大 倉 茂
事務局員	小 樽 市 保 健 所 生 活 衛 生 課 動 物 衛 生 係	係 長	武 田 実
事務局員	小 樽 市 保 健 所 保 健 課 保 健 サ ー ビ ス 係	主 任 栄 養 士	小 軽 米 正 子
事務局員	小 樽 市 保 健 所 保 健 課 保 健 指 導 第 2 係	係 長	高 橋 真 紀 枝
事務局員	小 樽 市 保 健 所 保 健 課 保 健 指 導 第 2 係	主 任 保 健 師	宇 田 川 ゆ かり
事務局員	小 樽 市 保 健 所 生 活 衛 生 課 環 境 衛 生 係		秋 村 信 吾